

第9回 安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会

日時：令和7年12月18日（木）

午後5時30分から午後7時

会場：安曇野市豊科交流学習センターきぼう

次 第

1 開 会

2 県教育委員会あいさつ

3 会議事項

- (1) 第8回安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会まとめ
- (2) 各校からの報告
- (3) 学びのイメージについて

4 その他

次の予定

【日時】 令和8年2月頃（予定）

【場所】 （調整中）

【内容】 学びのイメージ策定に向けた意見交換

5 閉 会

新校再編実施計画懇話会開催要綱

(目的)

第1 県教育委員会が、統合新校ごとの再編実施計画を策定するにあたり、再編対象校に加えて、対象校が所在する地域の意見を聴くため、「新校再編実施計画懇話会」(以下、「懇話会」という。)を開催する。

なお、懇話会は、地方自治法第138条の4第3項の規定に基づき、法律又は条例により設置された附属機関ではないものとする。

(会議事項)

第2 懇話会は、次の事項について意見交換を行う。

- (1) 学校像、教育方針等に関すること
- (2) 校地・施設・設備等に関すること
- (3) 管理運営等に関すること
- (4) 教育内容等に関すること
- (5) その他、県教育委員会が必要と認める事項に関すること

(構成員)

第3 懇話会の構成員は、統合対象校の学校関係者(校長、教職員等)、地域の代表(自治体関係者、産業界の代表等)、同窓会、PTA、生徒の代表等とし、必要に応じ、県教育委員会が依頼する。

2 会議に座長を置く。

(開催期間)

第4 会議は統合新校が開校するまでの間、開催するものとする。

附 則

この要綱は、令和2年10月26日から施行する。

安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会構成員名簿

(敬称略)

区分	氏名（座長◎）	所属等	役職等
1	自治体	中山 栄樹	安曇野市
2		宮澤 達	池田町
3		橋渡 勝也	安曇野市教育委員会
4		山崎 晃	池田町教育委員会
5	産業界	高橋 秀生	安曇野市商工会
6		栗原 裕	J A あづみ
7		宮崎 鉄雄	池田町商工会
8		傳刀 勇	J A 大北
9	学識経験者	◎村松 浩幸	信州大学教育学部
10	地域	斎藤 岳雄	有限会社 斎藤農園
11		石井 克則	黒田精工株式会社
12		深澤 大輔	株式会社 大王（大王わさび農場）
13		斎藤 政一郎	松本地域振興局
14		柳原 健	北アルプス地域振興局
15	同窓会	笠井 明	南安曇農業高等学校同窓会
16		山崎 完好	穂高商業高等学校同窓会
17		宮澤 敏文	池田工業高等学校同窓会
18	PTA	北川 昭一	南安曇農業高等学校 P T A
19		鶴澤 恒夫	穂高商業高等学校 P T A
20		小山 恵梨香	池田工業高等学校 P T A
21		小松 公平	安曇野市 P T A 連合会
22		小澤 誠一	大北 P T A 連合会
23	小中学校等 関係者	臼井 慎詞	安曇野市校長会（豊科北小校長）
24		工藤 美恵	北安曇校長会（池田小学校長）
25		山岡 勝則	安曇養護学校
26	再編対象校	蜜澤 健人	南安曇農業高等学校
27		大吉原 麗	南安曇農業高等学校
28		井出 敦	南安曇農業高等学校
29		今溝 秀雄	南安曇農業高等学校
30		山口 日菜子	穂高商業高等学校
31		小林 優夏	穂高商業高等学校
32		三宅 浩一	穂高商業高等学校
33		川上 忠志	穂高商業高等学校
34		深澤 穂積	池田工業高等学校
35		竹内 海翔	池田工業高等学校
36		藤田 洋子	池田工業高等学校
37		西山 浩介	池田工業高等学校

【事務局】

学校名	氏名（役職等）
南安曇農業高等学校	(教頭) 本山 義治
	(教職員) 今溝 秀雄、川上 直子、中田 貴子、矢野 良
穂高商業高等学校	(教頭) 橋本 徹
	(教職員) 浅見 大輔、有賀 詩織、川上 忠志、酒井 慎也
池田工業高等学校	(教頭) 山口 秀樹
	(教職員) 佐藤 仁、西山 浩介、松井 一陽、矢原 和義

氏名	所属等	役職等
県教育委員会	原 多恵子	高校教育課 高校再編推進室
	高橋 正俊	高校教育課 高校再編推進室
	原 周一郎	高校教育課 高校再編推進室
	貝野 宗司	高校教育課 高校再編推進室
	宮沢 悠太	学びの改革支援課 高校教育指導係

第8回 安曇野総合技術新校(仮称)再編実施計画懇話会まとめ（案）

日 時	令和7年9月24日（水）午後6時から午後7時30分				
場 所	安曇野市役所 4階 大会議室				
出 席 (敬称略)	中山 栄樹、宮澤 達、橋渡 勝也、山崎 晃、金森 俊文(代理)、栗原 裕、宮崎 鉄雄、傳刀 勇、村松 浩幸、斎藤 岳雄、石井 克則、草間 英樹(代理)、山口 陽輔(代理)、笠井 明、山崎 完好、宮澤 敏文、北川 昭一、鷺澤 恒夫、小山恵梨香、小松 公平、小澤 誠一、臼井 慎詞、山岡 勝則、蜜澤 健人、大吉原 麗、井出 敦、今溝 秀雄、三宅 浩一、川上 忠志、深澤 穂積、竹内 海翔、藤田 洋子、西山 浩介 (以上33名)				
欠 席 (敬称略)	高橋 秀生、深澤 大輔、斎藤政一郎、柳原 健、工藤 美恵、山口日菜子、小林 優夏 (以上7名)		傍聴		
			会場 16名、報道1社、オンライン2名		
事務局	南安曇農業高校	本山教頭、今溝教諭、加藤教諭、水谷教諭、矢野教諭			
	穂高商業高校	橋本教頭、浅見教諭、有賀教諭、川上教諭、酒井教諭			
	池田工業高校	山口教頭、佐藤教諭、西山教諭、松井教諭、矢原教諭			
	県教育委員会	佐野室長、柳沢主幹指導主事、高橋主任指導主事、原(周)主任指導主事、宮沢指導主事(オンライン)			
会議事項	(1) 第7回安曇野総合技術新校(仮称)再編実施計画懇話会まとめ (2) 講演「地域連携で地元の人材を育成」 講師：山梨県立甲府工業高等学校 専攻科創造工学科 総括主任 永田 典弘 先生 (3) 学びのイメージについて (4) 質疑応答及び意見交換				
当日資料	・次第、開催要綱、構成員名簿、第7回懇話会まとめ、懇話会のスケジュール、学びのイメージについて・講演会資料・会場配席図				

主な内容（→講師 →座長）

○会議事項

(1) 第7回安曇野総合技術新校(仮称)再編実施計画懇話会まとめ

・第7回懇話会まとめについて事務局から説明。【質問、意見なし】

(2) 講演「地域連携で地元の人材を育成」

講師：山梨県立甲府工業高等学校 専攻科創造工学科 総括主任 永田 典弘 先生

<甲府工業高校の概要>

・甲府工業高校は創立108年の歴史を持ち、全日制（5学科7クラス）、定時制（3学科3クラス）、他に専攻科として建築科（夜間）と創造工学科（昼間）がある。全体で約870名が在籍する大規模校。

・部活動が盛んで、特に応援団は県内のいろいろなイベントに呼ばれており活躍している。

・文部科学省指定のDXハイスクール事業でデジタル人材育成に取り組んでいる。機械・電子産業では「ロボットアームを使った製造工程の効率化を図る制御プログラムの研究」、建設業関係では「熟練技術のデジタル化（数値化）に向けたアナログデータのデジタル化の研究」を進めている。

・グループワーク主体の協働的な学びから探究的思考を育成するために、工業探究プログラムを実践している。

<専攻科創造工学科の魅力>

・専攻科は、山梨県に高等専門学校（高専）が存在しないという地域課題を背景に、地元の基幹産業である機械・電子産業の即戦力人材を育成する目的で設置された。

・専攻科の最大の特長は、文部科学省の学習指導要領に縛られず地域産業のニーズに応じた独自の教育課程を編成できる点である。授業料も高校と同等で、非常に安価。

・専攻科修了後は設計職などの専門性の高い職種に就き、給与面でも高卒より優遇される。企業からは、「専攻科の学生の高い技術力は大学生はない強み」と評価されている。

・創造工学科の教育の特色ある指導として「デュアルシステム」があり、「企業ガイダンス」・「企業実習」・「創造研究」の三本柱で構成している。

・1年次前期に51社による「企業ガイダンス」を校内で実施し、学生はすべての説明を聞き、事前調査と質問を通じて企業理解を深める。

・1年次後期には毎週火曜に「企業実習」を行う。5社を3日間ずつ訪問して、その企業の雰囲気や仕事内容を体験して、その5社の中から就職希望先を1社選ぶ。

・2年次後期の「創造研究」では内定先企業と一緒に研究に取り組む。研究費は自己負担10万円。研究内容は企業の課題解決ではなく、学生の成長を目的とした視点で研究と一緒に取り組んでもらうようにしている。

・専攻科では、成長できる環境をつくることを大切にし、授業や実習の中で協調性やリーダーシップなどの習慣化を図り、仲間を認め合えるような工夫をしている。また、イメージしたものを形にできる喜びや、工作機械などをひとりで操作できるようになる経験から、技術・技能が学べるような授業を心がけている。

・授業では手段と目的を区別して考えている。即戦力・実践力を育てるという目的のために、ものづくりの楽しさ、面白さ、喜びなどをどのような手段で感じてもらうかということが大切である。その手段として、学生に

- 面白いと思わせる知識・技術・技能の学び（教材）を用意する。それができれば、自ら学ぶ力に繋がっていく。
- この目的のためには、地域の方と一緒に学生を育てる必要がある。創造工学科では教員 11 人の他に、企業の方を含めた外部講師約 50 人に専門的な知識・技能を教えてもらっている。
 - 専攻科は教員にとっても学びの場であり、教員が専門性を高めることで山梨県の教育の質が向上すると考えている。専攻科は高校とは独立した運営体制で、教員が研究や教材開発に集中できる環境を整えている。他の高校に異動した際に専攻科で培った経験を広めることで、県内の教員の資質・能力の向上に繋げている。

<安曇野の高校再編に向けて（提案）>

- 高校再編は「農業・商業・工業の 3 学科統合は大きなチャンス」と捉え、将来を見据えながら生徒が育つ環境をつくる。新しい教育内容を導入できるので、単なる併設ではなく連携授業を科目に位置づけるなど、3 学科が一緒になる利点を活かした教育課程をつくるべきである。また、起業家意識（チャレンジ精神の育成）は、これから時代に求められる資質である。
- 文部科学省の DX ハイスchool 事業へ申請し、3 学科がデジタル技術を活用することで、若者の関心を引き、新しいイベントを立ち上げるなど、地域産業の活性化につなげることを考えてはどうか。
- 新校の目指す姿を具体的に示し、人材育成の目的と手段を明確にする。
- 学校と一緒に地域の方々が地域を盛り上げる気持ちが大切であり、生徒の就職先となる地元企業がどれだけ変われるかで、生徒が地元で頑張りたいと思えるようになる。地元の企業の魅力が学校の魅力にもなる。
- 安曇野総合技術新校では、専攻科を農業、商業、工業の 3 コースに分けて設置するはどうか。これにより教科横断的な課題解決型学習が可能となり、地域の多様なニーズに応える教育が実現できる。
- 生徒のため、地域のため、教員のために、やりがいのある楽しい学校をつくるべきである。
- 懇話会の構成員として「困難を楽しむ姿勢」で取り組むことが大切。「難しいかもしない。でも何とかしたいよね。」という方向で話をしてほしい。新校設立は地域と学校が一体となって未来をつくる絶好の機会であり、今こそ挑戦すべき時である。

【質疑応答・意見交換】

- 専攻科修了者の給与体系について、専門学校卒業者と同等の待遇になると説明があったが詳しく伺いたい。また、農水省がスマート農業、オーガニック農業に関する専攻科設置を推奨しているとの情報があるが、今後の検討材料として事務局からの説明を希望する。
- 企業の求人票には基本給が記載されており、手当を含めた初任給が提示される場合もある。専攻科修了者は高卒者より高い給与で採用され、設計・開発などの専門性の高い職種に就く傾向がある。
- 専攻科での学びが効率的であり、特に授業料が安価であることも含め、進学先として非常に魅力を感じた。
- 専攻科の授業では発表や質問を習慣化しており、主体性やコミュニケーション力が自然に育まれる。学生は自信を持って意見を述べるようになり、自己肯定感も高まっている。
- DX ハイスchool の取組に興味を持った。農業分野にもデジタル技術を導入することで、若者の関心を引き、人材不足の解消につながるのではないか。

(3) 学びのイメージについて（事務局提案）

- 学びのイメージの検討にあたり、事務局では「育てたい生徒像」、「目指す学校像」、「学びの具体的な中身」を段階的に検討し、構成員の意見を踏まえて具体化させていくこととした。
- 育てたい生徒像（事務局案）
 - チャレンジ精神とコミュニケーション能力を備えた専門性の高い生徒
3 学科の専門性を重視し、異なる分野の人たちと接することで、自らが学ぶ分野の専門性を再確認できる。また、協働する機会が増え、チャレンジ精神を養い、コミュニケーション能力の向上につながる。
 - 多様な人々と協働ができる生徒
異なる科が同じ校舎で学習することを利点と考え、お互いを認め合い、自己肯定感の醸成を図る。
 - 安曇野で学び、地域の課題解決に貢献できる生徒
安曇野の課題をテーマとした研究活動やプロジェクト活動に力を入れて、探究的な学びを積極的に行い、地域と連携した探究拠点となるように努める。
 - 自らを大切にし、他者も大切にする、心豊かな生徒
ICT の普及などで希薄になりがちな人間関係の中で、心を育むことは大切であり、多様な人たちと交流できる環境をいかしながら、将来の地域を支える若者を育てる。

【意見交換】

- 育てたい生徒像の方向性には賛成だが、専門高校としての現実的な視点も必要。特に人手不足の現状や、資格取得、採用の実態を踏まえた具体的な教育内容の検討が重要ではないか。
- ご指摘の通り、「目指す学校像」や「教育課程の具体化」に進む次のステップで、地域連携や職業教育の現実的な側面も含めて検討していく予定。今回の「育てたい生徒像」はその土台として位置づけている。

◎座長まとめ

- 前回と今回の講演では、3 校の統合を大きなチャンスとして捉え、学校と地域が連携しながら進めていくために力強いお話をいただいた。具体的な生徒像もかなり固まってきたため、次回以降の議論に進めていきたい。

その他

【次回懇話会】

- ・日時 令和 7 年 11 月頃（予定）
- ・会場 （調整中）
- ・内容 学びのイメージ策定に向けた意見交換

農業大学校・農業高校等におけるスマート農業教育の充実①

- 農業大学校や農業高校においてスマート農業の実践的な教育が行われるよう、スマート農業のカリキュラム強化、研修用農業機械・農業設備の導入、農場における無線LAN環境の整備、現場実習や出前授業の実施等を支援。

スマート農業のカリキュラム強化（R5）

新潟県農業大学校

- R5年度よりスマート農業の講義を拡充し、新たに大区画ほ場でドローンや無人田植機を利用した栽培実証を行い、労働時間や費用等の削減効果について分析



三重県立四日市農芸高校

- 環境モニタリングシステムを活用した生育データの分析や病害虫対策について学習
- ドローンの飛行訓練を通じて、操作・活用方法の習得のほか、安全性に関する教育を実施



農業教育について(抜粋)R7.9 農林水産省

スマート農業の現地研修・出前授業（R5）

徳島県立農林水産総合技術支援センター 農業大学校

- 外部講師による環境制御技術講習や、スマート農業を実践する先進農業経営体による出前授業を実施



福岡県立糸島農業高校

- スマート農業を実践するいちご農家への現地視察や、農機メーカーによる出前授業を実施



農業大学校・農業高校等におけるスマート農業教育の充実②

農業機械・農業設備の導入事例（R5）

富山県立小矢部園芸高校

【導入機械】

- GPSアシスト機能付トラクタ、田植機

【研修内容】

- 大規模営農組織で実際に使用されている水準の農業機械を在学中から操作し、即戦力となる人材を育成



長野県農業大学校

【導入機械】

- 自走式草刈機

【研修内容】

- 除草作業におけるスマート農業導入の有効性を学習



宮崎県立農業大学校

【導入設備】

- 環境測定機器

【研修内容】

- 栽培施設に導入し、データに基づく温度管理等を学習



農場の無線LAN環境の整備（R5）

長崎県立北松農業高校、西彼農業高校

- 農場において、1人1台タブレット端末を活用した実践的な学習ができるよう、無線LAN環境を整備し、野菜や家畜の生育状況などのデータを管理・活用を通じて、スマート農業に対応できる人材を育成



農業教育について(抜粋)R7.9 農林水産省

農業大学校等における有機農業の取組

農業教育について(抜粋)R7.9 農林水産省

- 道府県立農業大学校においては、全校が有機農業をカリキュラム化。この他、民間の農業教育機関等においても、有機農業の教育が実施されている。
- 令和6年度は、群馬県立農業大学校において、新たに有機農業専攻が設置。

○ 道府県立農業大学校における有機農業教育の状況

R6に有機農業の教育を実施 41校/41校

- ① 有機農業の専攻を設置 ・・・ 3校
- ② 有機農業を主とした科目を設定 ・・・ 16校
- ③ 科目の一部で有機農業を取り扱う ・・・ 22校

農林水産省経営局就農・女性課調べ（令和6年12月）

○ 有機農業教育を実施している民間教育機関等

- 日本農業実践学園（茨城県）
- 鶴岡市立農業経営者育成学校（山形県）
- とやま有機農業アカデミー（富山県）
- 兵庫楽農生活センター（兵庫県）
- 山都町有機農業サポートセンター（熊本県）
- 綾オーガニックスクール（宮崎県）

等

○ 有機農業専攻を設置している道府県立農業大学校

島根県立農林大学校 有機農業専攻 (平成24年度～)



内容：座学の他、露地、ハウス、水田を組み合わせて、育苗から出荷まで一貫した有機栽培技術を習得

定員：10名程度（令和6年度）

期間：2年間

埼玉県農業大学校 短期農業学科 有機農業専攻 (平成27年度～)



内容：農作業の基礎、堆肥や緑肥による土づくり、野菜等60品目ごとの栽培適期や採取方法等を習得

定員：15名（令和6年度）

期間：1年間

群馬県立農林大学校 農業経営学科 社会人コース 有機農業専攻 (令和6年度 新設)



内容：土づくり、病害虫防除、有機JAS認証制度等の講義や、有機専用は場における実習、有機農家での研修を実施

定員：5名（令和6年度）

期間：1年間

11

新規就農者育成総合対策のうち 農業教育高度化事業

【令和7年度予算額 10,748（9,638）百万円の内数】
(令和6年度補正予算額 5,416百万円の内数)

<対策のポイント>

農業大学校、農業高校等における農業機械・設備の導入や施設の整備、海外研修、スマート農業等のカリキュラム強化、先進農業者の下での現場実習、出前授業の実施に加え、就農前の研修や現役農業者に対するリ・スキリングなど教育・研修モデルの創出を支援します。

<事業目標> 40代以下の農業従事者の拡大

<事業の内容>

1. 全国事業

- 民間団体による以下の取組を支援します。
 - 農業教育機関の指導者、学生等の能力向上に資する研修の実施（定額）
 - 民間団体が運営する農業教育機関の教育高度化の取組（定額又は1/2）
 - 国際的な農業人材育成のための取組（定額）

2. 都道府県事業

- 各都道府県が作成する農業教育高度化プランに位置づけられた農業大学校、農業高校等の農業教育機関の農業教育の高度化・充実、先進的な教育・研修モデルの創出等のための取組を支援します。

<取組例>

- スマート農業、環境配慮型農業等の教育カリキュラムの強化（定額）
- 研修用農業機械・設備の導入（リースを含む）、ICT環境の整備（1/2以内）
- 現場実習や出前授業等、若者の就農意欲を高める取組（定額）
- 就農前の研修や、現役農業者に対するリ・スキリングなど教育・研修モデルの創出

3. (令和6年度補正予算)

- 新規就農者確保緊急円滑化対策のうち農業教育環境整備事業
- 農業大学校・農業高校等における以下の取組を支援します。
 - 農業用機械・設備の導入、無線LAN等のICT環境の整備（1/2以内）
 - 有機農業専攻・科目的設置や有機JAS認証の取得に向けた取組（グリーン教育推進）（定額、上限1,500万円／都道府県）
 - 技術習得等に必要となる研修施設等の整備（1/2以内）

<事業の流れ>



農業教育について(抜粋)R7.9 農林水産省

<事業イメージ>

全般段階



指導者・学生等向け研修の実施



民間農業教育機関※の教育高度化
※研修生の就農地が県を超える場合



海外農業研修への参加

都道府県段階

○○県農業教育高度化プラン
1. 地域の課題
2. 農業教育の目的
3. 目標
4. 農業教育機関の役割分担
5. 農業教育の高度化に必要な取組
（スマート農業のカリキュラム強化
・研修用機械・設備の導入
・先進農業者による出前授業
・LAN環境の整備 等）

都道府県が農業教育での必要な取組を明確化した
計画（農業教育高度化プラン）を作成



都道府県の実情に応じた農業教育の高度化

先進的な教育・研修モデルの創出等

（取組例）体系的なスマート農業研修
体系的なスマート農業研修に要する農業機械・設備の導入、研修に要する経費を支援
(取組例) 耕起から収穫までの一連のスマート農業技術研修



(補正予算) 農業教育環境整備事業

①スマート農業機械等の導入
ドローン
自動操縦システム
無線LAN、タブレット

②グリーン教育推進
有機農業専攻・科目的設置や有機JAS認証の取得に向けた取組をリワードで支援
(取組例) (補助上限1,500万円／1都道府県)
・研修用機械・設備の導入
・先進農業者による出前授業
・教育コンテンツの作成
・有機JAS講習会の受講 等

③研修施設等の整備
農業用ハウス
畜舎

[お問い合わせ先] 経営局就農・女性課 (03-6744-2162)

15

安曇野総合技術新校の学びのイメージ（懇話会事務局案）

懇話会事務局会での検討方法

「学びのイメージ（キーワード）」 → 「育てたい生徒像」 → 「目指す学校像」
→ 「学校の中身」 → 「学校の形」

【学びのイメージ（キーワード）】（第6回懇話会から変更はありません）

- ・「安曇野が学びのフィールド」
- ・「安曇野産業の探究拠点」
- ・「協働的に問題解決に粘り強く挑戦する人物の育成」
- ・「地域連携をとおして社会貢献のできる人物の育成」
- ・「主体的に元気よく何事にも前向きに取り組める人物の育成」

【育てたい生徒像】

<第8回懇話会事務局案(2025.9.24)> 育てたい生徒像

1. チャレンジ精神とコミュニケーション能力を備えた専門性の高い生徒
2. 多様な人々と協働ができる生徒
3. 安曇野で学び、地域の課題解決に貢献できる生徒
4. 自らを大切にし、他者も大切にする、心豊かな生徒



<修正点>
「2」と「4」を1つにまとめた

<第9回懇話会事務局案> 育てたい生徒像

1. チャレンジ精神とコミュニケーション能力を備えた高い専門性をもつ生徒
2. 自らを大切にし、多様な人々と協働できる、心豊かな生徒
3. 安曇野で学び、地域の課題解決に貢献できる生徒

（解説）

1. 各科の専門分野の学びを身につけながら、他学科の仲間たちと接することで、自身の専門性を再確認できる。また、学校のスケールメリットを活かした生徒同士の交流や地域の人たちとの探究活動をとおして、産業界が求める積極性や国際感覚を含めたコミュニケーション能力を持つ生徒。（専門性や積極性の醸成）
2. 学校生活での学び合いや世代を超えた多様な人々との協働をとおして、自己肯定感や自己有用感などが高い心が豊かな生徒。（道徳性や人間性の育成）
3. 地域の課題をテーマとした研究活動や、プロジェクト活動のような探究的な学びに取り組むことで、安曇野の未来を支える生徒。（地域貢献）

【目指す学校像】

<第6回懇話会事務局案(2025.5.19)> 目指す学校像

1. チャレンジできる学校
 - ・活気があり、主体性を持ち、積極的に問題解決に取り組む意欲を育成する。
 - ・好奇心とコミュニケーション能力を育て、基本的生活習慣の定着を図る。
2. 地域に根差した学校
 - ・地域に根差した総合学習の場を提供し、地域にも価値のある学校。
 - ・一緒に学び、研究できる地域の研究機関となる学校。
3. 多面的な学びを提供する学校
 - ・農工商の専門科目を学ぶことができ、さらに未来を見据えた農工商が融合した学びができる。
 - ・探究やものづくりを中心とした学校で、資格・検定を多く取得できる。
 - ・デュアルシステムや産学協同研究ができる学校。
4. 柔軟な教育カリキュラムを持つ学校
 - ・学科を移動できる柔軟な教育カリキュラムを提供し、ミックスホームルームや外部人材の活用を行う。
 - ・共学共創コンソーシアムの設置や、安曇野に密着した学びを提供する。
5. 産業界との連携を強化する学校
 - ・産業界からの生徒支援を受ける。
 - ・特色あるクラブ活動の実践。
 - ・生徒募集方法の検討、専攻科の設置。



<修正点>

- ・項目を整理しながら【育てたい生徒像】と【目指す学校像】が関連づくようにまとめた
- ・MIRAIをキーワードにして項目をまとめた

<第9回懇話会事務局案> 目指す学校像

1. MIRAIにチャレンジする学校
2. 横断的なかかわりをとおして、「好き」や自分のMIRAIを再発見できる学校
3. 地域とともにMIRAIを創造する学校

(解説)

1. 積極的に問題解決に取り組んだり、クラブ活動や資格取得などに挑戦できる環境を整備することで自己成長を支援する。また、グローバル人材の育成に向けた学習機会を創出する。(専門性や積極性の醸成)
2. 専門的な学びを経て、課題研究などで他学科とかかわりながら、未来を見据えた発展的な学びを実践する。その中で新たな興味・関心（好き）を再発見することで自己実現、進路実現に結びつける。(道徳性や人間性の育成)
3. 地域と連携した探究拠点として、安曇野に密着した研究活動の実践。(地域貢献)

■学校の中身…新校の特色あるカリキュラム、学びの融合、魅力づくり

- ・各種検定取得、収穫祭などの農業クラブに係る学校行事
- ・活性汚泥の肥料化の研究、安曇野オリジナル商品開発プロジェクトなど、地域との連携活動
- ・課題研究の一人一研究、課題研究の時間を3科同時に設定する
- ・全校生徒で田畠を耕す、農作物を育てる取り組み
- ・基礎学力の定着、PBL、ビジネス探究、ケースメソッド、地域人教育に該当する学び
- ・新たな地域連携コンソーシアム（デュアルシステム・探究支援委員会）構築と連携コーディネータの配置による産学官やデュアルシステム等の外部連携の強化
- ・海外研修旅行や短期留学制度等を用いた「海外産業研修」を通じた探究活動や課題研究
- ・高校卒業後の進路先の1つとして「専攻科」の設置